

## 県民協働の推進に関する研究会（第5回） 議事要旨

- 1 日 時：平成27年10月7日（水） 14:00～15:15
- 2 場 所：大津合同庁舎6-B会議室
- 3 出席者委員：深尾昌峰座長、阿部圭宏座長職務代理  
浅野智子委員、川村美津子委員、坂下靖子委員、秦憲志委員
- 4 議事次第
  - (1) 開会
  - (2) 県民協働の推進に関する研究会報告書（案）について
- 5 議事の経過
  - 委員の主な意見は、以下のとおり。
    - ・具体的な取組の提案の中で、協働推進員、協働推進連絡員に対して協働推進に関する権限を付与とあるが、どういうことか。
    - ・評価される仕組みにつながるといいし、組織のあり方も見直していけるといい。
    - ・協働推進員の人が横につないでいながら、どんどん課の理屈とか部の理屈を超えていろんな提案、事業の構築ができればいい。そういう意味での権限というのが書くか書かないかは別として、そういうイメージとしておいてもらえたらと思う。
    - ・言うまでもなく、行政、民間の協働によって、新しい価値、新しいやり方などよりよいものを生み出すことができる。あるものとあるものを組み合わせたり、また、新しい手法を導入することも可能である。
    - ・横断的な取組というものも目標の中に入れるべきなのかなと、またそのための推進員さんとか連絡員とかが動けるような裁量を与えるべきだという流れにしたらどうかと思う。
    - ・協働プラットフォームにすべてを押し付けるのはあれですが、ここが機能していくかどうかというのが重要なところ。ある意味で、協働プラットフォームの多様な主体で協働で生み出していくプラットフォームもあれば、協働化テストや庁内の協働、行政内協働を積極的に生み出していく役割もあれば、課を超えた協働モデルや事業モデルもどれぐらい生み出せるかというところも一つの指標だということで、ひとつ報告書の目玉というのは、協働プラットフォームを多層的にとらえながら、行政の人たちの課題や悩み

も吐き出していただきながら、成果目標に向かってみんなでいけるようなプラットフォームとして位置付ければいいのかと思う。

- ・部局横断って難しい。過去の提案制度の中で押し付け合いになったわけです。予算化するとかもめてくる。

- ・協働提案のところは、民間との協働に関する提案制度の運用改善というところに集約にされている。プラットフォームもそうだったが、情報をいろんな人にこういう課題がありますよとか、共有しましょうとか、表現はこれでいいのですが、プラットフォームで出た課題にかけて出してもらおうとか、検討課題のあるものはプラットフォームで練って、そういうところに手をあげてくださいよと、情報がオープンになるような、そういうところがあるといいなと思う。

- ・アイデア入札制度みたいなものがあるといいと思う。そういう意味では、協働プラットフォームでのどう具現化していくかということ。

- ・協働の契約とか協定とか、評価の中で見るというのでいいのか。少し触れておく必要がある。

## 6 次回研究会について

日程：平成 28 年 3 月予定

場所：未定